



ジャガイモ

山武経済センター
営農指導員 宇井 文英

植え付け前に、ネキリムシ類の防除としてダイアジノン粒剤5を10㎡当たり6g施用します。冷涼な気候を好むので、晩霜害の恐れがない限り、早めに植え付けます。浅植えの方が地温上昇

● 植え付け作業

● 植え付け後の管理

土壌pHが高いと、そうか病(写真2参照)の発生が多くなるので、作付けを避けるか石灰質肥料を控えるなどの調整をしてください(ジャガイモはやや酸性気味の土壌「pH5.5〜6.0」を好みます)。施肥は表3を参照ください。

● 圃場準備

種イモが届いたら、できるだけ速やかに開封しましょう。痛み、変色、腐敗したイモは取り除き、コンテナなどに入れて風通しの良い所に保管してください。種イモは大きいほど初期生育が良く、茎数が増え、イモ数も多くなりますが、60g以上になっても収穫量に差はなく、1片の大きさは60g前後で十分です。切り分けたイモは2〜3日風通しの良い日陰で乾かすか、黒あざ病予防のためにバリダシン粉剤DLを種イモ重量の0.3%粉衣処理しましょう。

● 植え付け準備

● 植え付けと圃場の準備

種イモが届いたら、できるだけ速やかに開封しましょう。痛み、変色、腐敗したイモは取り除き、コンテナなどに入れて風通しの良い所に保管してください。種イモは大きいほど初期生育が良く、茎数が増え、イモ数も多くなりますが、60g以上になっても収穫量に差はなく、1片の大きさは60g前後で十分です。切り分けたイモは2〜3日風通しの良い日陰で乾かすか、黒あざ病予防のためにバリダシン粉剤DLを種イモ重量の0.3%粉衣処理しましょう。

土寄せは、畝の形がまぼこ型になるように行いましょう。山と谷の差が大きいほどイモの着生が良くなります。少なくともイモができる10cm以上の高さまで土をかぶせ、山と谷の差が20〜25cmになるように行いましょう。

芽かき作業
芽が出てきたら、大きめの芽を2〜3本残して、他の芽は根元からかき取ります。

● 土寄せ

芽かき後の土寄せの目安は、出芽から約20日後です。土寄せすることで根圏が拡大し、雑草が減ります。また、生理障害やイモの緑化、収穫時の傷を減らす効果があります。地上部が30cm位の高さになったら、さらに10〜15cm土寄せを行いましょ。

写真2 そうか病 (写真提供元: JA全農ちば)



表3 ジャガイモの施肥量と目安

肥料名	成分	施肥量 (10a当たり)
さんぶジアン有機特806	8-10-6	200kg
苦土重焼燐	0-35-0	40kg
畑のカルシウム	カルシウム分 28.5%	100kg

11月の分析経過について		合計24点			
残留農薬分析点数	多成分一斉分析	ニンジン(ちばエコ) 2点	キャベツ 1点 (緑の風)		
		越冬キュウリ 2点	ネギ 1点 (緑の風)		
		越冬ナス 1点	サトイモ 1点 (緑の風)		
		秋冬ネギ 7点	小松菜 1点 (緑の風)		
		ニラ 1点	ダイコン 1点 (緑の風)		
		シュンギク 1点 (緑の風)	ニンジン 1点 (インショップ)		
		白菜 1点 (緑の風)	サトイモ 1点 (インショップ)		
		レタス 1点 (緑の風)	サツマイモ 1点 (インショップ)		
		※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。		土壌診断点数 合計29点	

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



秋冬ネギ

成東経済センター
営農指導員 中村 光佑



平成30年産の状況について

昨年は記録的に梅雨明けが早く、7月から8月にかけての生育期が高温・乾燥していたことから、生育不良や停滞気味の圃場が見受けられました。また、9月末の台風24号の通過により、葉折れや倒伏による被害が発生したことから、全体的に2週間から3週間程度の出荷遅れとなりました。11月以降は、適度な降雨と天候にも恵まれ、生育は回復傾向となり、太物の発生比率が上がりました。



葉枯病

本病は糸状菌(カビ)によって引き起こされる病害で、秋や春先(15〜20℃)に発生し、降雨によって拡大します。主に外葉では、紡錘形・楕円形の病斑を形成し、暗褐色で、すず状のカビを生じます。中心葉付近では、黄緑色の不規則な斑紋症状(黄色斑紋病斑)を生じ、商品価値を著しく低下させます(写真1参照)。葉枯病は、べと病の病斑に二

表1 葉枯病・黒斑病・べと病に登録のある薬剤

葉枯病	黒斑病	べと病	薬剤名	希釈倍率	収穫前日数	使用回数
●	●	●	アミスター 20フロアブル	2000倍	3日前まで	4回
●	●	●	メジャーフロアブル	2000倍	前日まで	3回
●		●	プロポーズ顆粒水和剤	1000倍	14日前まで	3回
●	●		ベルフート水和剤	2000倍	30日前まで	合わせて
●	●		ポリベリン水和剤	1500倍	14日前まで	3回
●	●	●	テーク水和剤	600倍	14日前まで	3回
●	●		パレード20フロアブル	2000〜4000倍	前日まで	3回
●	●		ファンタジスタ顆粒水和剤	3000倍	7日前まで	3回

次的に感染する場合も多く、早めの予防散布が重要となります。また、肥切れや草勢の衰えた圃場で発生が多いため、肥培管理や適期収穫に努めましょ。

表2 ネギアザミウマに登録のある薬剤

薬剤名	希釈倍率	収穫前日数	使用回数
アクタラ顆粒水溶剤	1000〜2000倍	3日前まで	3回
アグリメック	500〜1000倍	3日前まで	3回
アグロスリン乳剤	2000倍	7日前まで	5回
リーフガード顆粒水和剤	1500倍	7日前まで	2回
コルト顆粒水和剤	2000倍	3日前まで	3回
ディアナSC	2500〜5000倍	前日まで	2回
スタークル顆粒水溶剤	2000倍	3日前まで	2回
ベネビアOD ★	2000倍	前日まで	3回
ファインセーブフロアブル ★	1000〜2000倍	3日前まで	2回

★・・・ネギアザミウマに高い効果が期待できます

写真1 ネギの黄色斑紋病斑

